

6月 菊池高校 人権だより

[発行日]2026年6月3日

[文責] 人権教育主任 寺尾寛紀



杉本 肇先生からお話をいただきます。

こんにちは！6月になりました。人権LHRで水俣病について学習してもらいました。すでに知っている内容も多かったのではないのでしょうか。今月は水俣病語り部の杉本先生をお呼びして、皆さんに講演をしていただきます。5月のLHRで学んだ資料は大切にとっておいてください。

デートDVを考える

— お互いを大切にしている関係とは —
デートDVとは、交際している相手に対して、心や体を傷つけたり、行動を制限したりすることをいいます。暴力というと、たたく・けるといった行為を思い浮かべるかもしれませんが、「誰と話しているのかを細かく聞く」「スマートフォンを勝手に見る」「相手を不安にさせるような言動をする」「友人関係を制限する」といったことも含まれます。こうした行為は、相手の自由を狭めてしまうという点で、見過ごすことのできない問題です。

では、なぜデートDVはよくないのでしょうか。それは、一人ひとりが自分の考えや気持ちを大切にされる存在だからです。恋愛は本来、お互いを思いやり、安心できる関係の中で成り立つものです。しかし、相手を自分の思い通りにしようとしたり、不安や怖さを与えたりする関係は、対等な関係とはいえなくなってしまいます。「好きだから」「心配だから」という気持ちがあったとしても、それが相手の自由や尊重を奪ってしまうなら、見直す必要があります。

ここで大切になるのが、男女のあり方についての考え方です。これまで社会の中には、「男はこうあるべき」「女はこうするべき」といった考え方がありました。こうした見方が強いと、「相手に従わせてもよい」「我慢するのが当たり前」といった関係につながってしまうこともあります。しかし、本来は性別に関係なく、どの人も対等であり、大切にされるべき存在です。

また、デートDVは特定の誰かの問題ではなく、誰にとっても身近に起こりうるものです。大切なのは、「相手を自分と同じように尊重できているか」という視点です。相手を思う気持ちは、相手の行動を縛ることではなく、その人らしさを認めることにつながっていくはずですよ。

もし、関係の中で「なんとなく怖い」「無理をしている気がする」と感じるものがあれば、その感覚はとても大切なサインです。誰かとの関係の中で安心できること、そして自分らしくいられることは、とても大切なことだからです。

デートDVについて考えることは、相手を大切にすることはどういうことかを考えることでもあります。恋愛を通して、お互いを尊重し合う関係を築いていくことが、やがては誰もが安心して過ごせる社会につながっていくのではないのでしょうか。

5月の人権LHRの感想から（ありがとう。）

○小学校・中学校と学習を重ねてきて、今日は水俣病を振り返る良い機会となりました。私は熊本人なので正しい知識を持っていますが、県外の人たちは間違った知識が定着しているかもしれないので、水俣病について発信する場があればいいなと思いました。（1年・女子）

○中学校までで習ったことも再確認できたが忘れていたり知らなかったこと、理解できていなかったことも知れてよかったです。これからも忘れないためにこういうことを続けて、理解していきたいです。（2年・女子）

